

## Ⅱ 調査結果の概要

注) 文中において、今期、前期、来期については、特に説明がない限り、以下の時期である。

- 前期 平成26年 10月～平成26年 3月期
- 今期 平成26年 4月～平成26年 9月期
- 来期 平成26年 10月～平成27年 3月期

## 1. 調査結果の総括

新潟市内事業所の「業況判断」について、平成26年4～6月期は前期（同1～3月期）から悪化したが見通しだが、続く7～9月期は若干持ち直した。先行きについてみると、同10～12月期はゆるやかに回復する見通しだが、27年1～3月期は後退する見通しとなっている。

今期における他の主要項目のBSIをみると、「生産・売上」「受注」「出荷」は低下した。「在庫水準」は製・商品、原材料とも過剰超となった。「仕入価格」「販売価格」はともに上昇した。「資金繰り」は改善した。

経営上の問題については、「仕入価格の上昇」が最も多く、以下「人材不足」、「生産・受注・売上げ不振」と続いている。

業界の動向としては、幅広い業種において、平成26年4月の消費税率の引き上げに伴う売上の反動減や、為替動向（円安）に伴う原材料等の仕入価格上昇、人材の確保難といった声などがあつた。

## 2. 新潟市景況調査結果（BSI）の総括表

<p>1. 業況 P. 12～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>26年4～6月期の業況感を示した業況BSI（「良い」－「悪い」）は▲27.0と、同1～3月期の▲24.3から2.7ポイント悪化したが見通しだが、続く26年7～9月期は▲25.5と、1.5ポイント改善した。先行きについてみると、同10～12月期は▲20.5と、さらに5.0ポイント改善する見通しだが、27年1～3月期は▲23.7と、低下に転じる見通しとなっている。</li> </ul>
<p>2. 生産・売上 P. 20～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期の生産・売上BSI（「増加」－「減少」）は▲20.0と、前期（▲9.4）から10.6ポイント低下した。来期は▲18.0と、上昇に転じる見通しとなっている。</li> </ul>
<p>3. 受注 (製造業・建設業のみ) P. 25～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期の受注BSI（「増加」－「減少」）は▲22.1と、前期（4.5）から26.6ポイント低下し、7期ぶりの低下となり、プラスからマイナスに転じた。来期は▲22.4と、今期とほぼ同水準で推移する見通しとなっている。</li> </ul>
<p>4. 出荷 (製造業のみ) P. 28～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期の出荷量BSI（「増加」－「減少」）は▲17.4と、前期（▲4.1）から13.3ポイント低下した。来期は▲14.2と、上昇する見通しとなっている。</li> <li>今期の出荷額BSI（「増加」－「減少」）は、▲20.1と前期（▲6.3）から13.8ポイント低下した。来期は、▲15.5と、上昇する見通しとなっている。</li> </ul>
<p>5. 在庫水準 (原材料在庫は製造業のみ) P. 33～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>製・商品在庫BSI（「過剰」－「不足」）は1.2と、前期（▲0.5）から1.7ポイント上昇し、「過剰」超に転じた。来期については、0.0となっている。製・商品在庫を「適正」とする事業所の割合は、今期、来期ともに約4割となっている。</li> <li>今期の原材料在庫BSI（「過剰」－「不足」）は▲2.7と、前期（▲1.3）から4.0ポイント上昇し、「過剰」超となった。来期は▲1.3と、「不足」超に転じる見通しとなっている。</li> </ul>
<p>6. 価格 P. 41～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期の仕入価格BSI（「上昇」－「低下」）は、40.3と前期（36.1）から4.2ポイント上昇し、4期連続の上昇となった。来期については32.6と、低下に転じる見通しとなっている。</li> <li>今期の販売価格BSI（「上昇」－「低下」）は5.4と、前期（▲4.8）から10.2ポイント上昇し、マイナスからプラスに転じた。来期は2.8と、低下する見通しとなっている。</li> </ul>
<p>7. 資金繰り P. 51～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期の資金繰りBSI（「好転」－「悪化」）は▲11.6と、前期（▲15.9）から4.3ポイント上昇した。来期は▲11.7と、今期とほぼ同水準で推移する見通しとなっている。</li> </ul>

<p>8. 雇用 P. 56～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>26年度の雇用BSI(正社員の数) (「増加」－「減少」)は2.7と、25年度(▲2.4)から5.1ポイント上昇し、マイナスからプラスに転じた。27年度は3.4と、ほぼ横ばいとなる見通しとなっている。</li> <li>26年度の臨時・パート社員等の雇用BSI(増加－減少)は0.5と、25年度(▲0.6)から1.1ポイント上昇し、マイナスからプラスに転じた。27年度は▲0.1と、再びマイナスとなる見通しとなっている。</li> <li>今期の所定外労働時間BSI(「増加」－「減少」)は▲0.3と、前期(2.2)から2.5ポイント低下し、プラスからマイナスに転じた。来期は0.4と、ほぼ同水準で推移する見通しとなっている。</li> <li>今期の一人当たり人件費BSI(「増加」－「減少」)は21.8と、前期(15.1)から6.7ポイント上昇し、7期連続の上昇となった。来期は19.7と、低下に転じる見通しとなっている。</li> </ul>
<p>9. 設備投資動向 P. 76～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期の生産設備BSI(「過剰」－「不足」)は▲10.0と、前期(▲10.0)から横ばいとなった。来期は▲6.4と、「不足」超幅が縮小する見通しとなっている。</li> <li>今期の営業用設備BSI(「過剰」－「不足」)は▲4.4と、「不足」超幅が縮小した。来期は▲3.6と上昇し、「不足」超幅が縮小する見通しとなっている。</li> <li>26年度における設備投資の実施事業所割合(実績見込み)は24.5%と、前年度とほぼ同水準となった。来年度は14.5%と、低下する見通しとなっている。 26年度の設備投資目的としては、「既存機械・設備の入れ替え」が最も多くなっている。</li> </ul>
<p>10. 経営上の問題 P. 85～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営上の問題について、各項目の該当事業所割合は「仕入価格の上昇」(41.4%)が最も多く、以下「人材不足」(40.1%)、「生産・受注・売上げ不振」(32.8%)と続いている。</li> </ul>

<p>3. 業種別 新潟市景況調査結果 (BSI) の総括表</p>	
<p>製造業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>26年4～6月期の業況判断BSIは▲27.4と、前期(▲19.0)から8.4ポイント低下し、続く同7～9月期は▲31.5とさらに低下した。先行きについてみると、同10～12月期は▲19.2と上昇に転じるものの、27年1～3月期は▲21.9と低下する見通しとなっている。</li> <li>今期の生産・売上BSIは▲23.8と、前期(▲8.6)から15.2ポイント低下した。来期は▲16.5と、上昇に転じる見通しとなっている。</li> <li>今期の受注BSIは▲23.3と、前期(0.5)から23.8ポイント低下し、プラスからマイナスに転じた。来期は▲17.8と、上昇に転じる見通しとなっている。</li> <li>今期の製・商品在庫BSIは1.8と、前期(▲4.5)から6.3ポイント上昇し、「過剰」超となった。来期は0.0と、低下する見通しとなっている。</li> <li>今期の仕入価格BSIは47.1と、前期(45.7)から1.4ポイント上昇した。今期の販売価格BSIは▲1.8と、前期(▲4.5)から2.7ポイント上昇した。</li> <li>今期の資金繰りBSIは▲16.4と、前期(▲16.7)からほぼ横ばいとなった。来期は▲16.9と、ほぼ横ばいとなる見通しとなっている。</li> <li>26年度における設備投資の実施事業所割合(実績見込み)は31.8%と、前年度実績(29.5%)から増加した。</li> <li>経営上の問題は「仕入価格の上昇」(50.2%)が最も高く、以下「生産・受注・売上げ不振」(42.9%)、「人材不足」(31.1%)と続いている。</li> </ul>

<p>非製造業 計</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>26年4～6月期の業況判断BSIは▲26.9と、前期（▲25.8）から1.1ポイント低下したが、続く同7～9月期は▲23.8と上昇に転じた。先行きについてみると、同10～12月期は▲21.0とさらに上昇するが、27年1～3月期は▲24.3と低下に転じる見通しとなっている。</li> <li>今期の生産・売上BSIは▲18.9と、前期（▲9.7）から9.2ポイント低下した。来期は▲18.4と、ほぼ横ばいとなる見通しとなっている。</li> <li>今期の仕入価格BSIは38.5と、前期（33.4）から5.1ポイント上昇した。今期の販売価格BSIは7.4と、前期（▲4.9）から12.3ポイント上昇し、マイナスからプラスに転じた。</li> <li>今期の資金繰りBSIは▲10.3と、前期（▲15.8）から5.5ポイント上昇した。来期は▲10.3と、横ばいとなる見通しとなっている。</li> <li>26年度における設備投資の実施事業所割合（実績見込み）は22.3%と、前年度実績（22.3%）から横ばいとなった。</li> <li>経営上の問題は「人材不足」（42.6%）が最も多く、以下「仕入価格の上昇」（38.9%）「生産・受注・売上げ不振」（30.0%）と続いている。</li> </ul>
<p>建設業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>26年4～6月期の業況判断BSIは▲19.7と、前期（▲8.0）から11.7ポイント低下したが、続く同7～9月期は▲15.0と上昇した。先行きについてみると、同10～12月期は▲18.1と低下に転じ、27年1～3月期は▲24.3と引き続き低下する見通しとなっている。</li> <li>今期の生産・売上BSIは▲15.0と、前期（5.0）から20.0ポイント低下し、プラスからマイナスに転じた。来期は▲18.1と、さらに低下する見通しとなっている。</li> <li>今期の受注BSIは▲20.8と、前期（8.9）から29.7ポイント低下し、プラスからマイナスに転じた。来期は▲27.4と、さらに低下する見通しとなっている。</li> <li>今期の仕入価格BSIは47.7と、前期（40.3）から7.4ポイント上昇した。今期の販売価格BSIは9.9と、前期（▲2.5）から12.4ポイント上昇し、マイナスからプラスに転じた。</li> <li>今期の資金繰りBSIは▲4.7と、前期（▲3.5）からポイント1.2ポイント低下した。来期は▲9.9とさらに低下する見通しとなっている。</li> <li>26年度における設備投資の実施事業所割合（実績見込み）は21.6%と、前年度実績（21.8%）からほぼ横ばいとなった。</li> <li>経営上の問題は「人材不足」（50.8%）が最も多く、以下、「仕入れ価格の上昇」（44.6%）、「労働力不足」（39.4%）と続いている。</li> </ul>
<p>運輸・通信業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>26年4～6月期の業況判断BSIは▲19.0と、前期（▲21.3）から2.3ポイント上昇し、続く同7～9月期は▲19.8と、ほぼ横ばいとなった。先行きについてみると、同10～12月期は▲17.6と上昇するが、27年1～3月期は▲20.4と、低下に転じる見通しとなっている。</li> <li>今期の生産・売上BSIは▲5.6と、前期（1.6）から7.2ポイント低下し、プラスからマイナスに転じた。来期は▲11.2と、さらに低下する見通しとなっている。</li> <li>今期の仕入価格BSIは36.6と、前期（32.3）から4.3ポイント上昇した。今期の販売価格BSIは7.1と、前期（▲4.7）から11.8ポイント上昇し、マイナスからプラスに転じた。</li> <li>今期の資金繰りBSIは▲11.3と、前期（▲8.6）から2.7ポイント低下した。来期は▲12.7とさらに低下する見通しとなっている。</li> <li>26年度における設備投資の実施事業所割合（実績見込み）は30.5%と、前年度実績（30.2%）からほぼ横ばいとなった。</li> <li>経営上の問題は「人材不足」（45.8%）が最も多く、以下「仕入価格の上昇」（33.1%）、「生産・受注・売上げ不振」（26.8%）と続いている。</li> </ul>

卸・小売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>26年4～6月期の業況判断BSIは▲38.8と、前期（▲23.4）から15.4ポイント低下し、続く同7～9月期は同じく▲38.8と横ばいとなった。先行きについてみると、同10～12月期は▲24.7と上昇に転じるが、27年1～3月期は▲26.8と、低下に転じる見通しとなっている。</li> <li>今期の生産・売上BSIは▲26.0と、前期（▲13.8）から12.2ポイント低下した。来期は▲17.6と、上昇に転じる見通しとなっている。</li> <li>今期の仕入価格BSIは38.0と、前期（37.2）から0.8ポイント上昇した。今期の販売価格BSIは16.9と、前期（2.0）から14.9ポイント上昇した。</li> <li>今期の資金繰りBSIは▲7.0と、前期（▲25.5）から18.5ポイント上昇した。来期は▲14.1と、低下する見通しとなっている。</li> <li>26年度における設備投資の実施事業所割合（実績見込み）は16.4%と前年度実績（19.5%）から低下した。</li> <li>経営上の問題は「仕入価格の上昇」（40.8%）が最も多く、以下、「生産・受注・売上げ不振」（31.7%）、「人材不足」（31.0%）と続いている。</li> </ul>
非製造業 飲食・宿泊業	<ul style="list-style-type: none"> <li>26年4～6月期の業況判断BSIは▲41.9と、前期（▲58.0）から16.1ポイント上昇し、続く同7～9月期は▲28.6とさらに上昇した。先行きについてみると、同10～12月期は▲31.4と低下に転じるが、27年1～3月期は▲30.4とほぼ横ばいとなる見通しとなっている。</li> <li>今期の生産・売上BSIは▲22.8と、前期（▲30.8）から8.0ポイント上昇した。来期は▲17.2と、さらに上昇する見通しとなっている。</li> <li>今期の仕入価格BSIは60.0と、前期（52.3）から7.7ポイント上昇した。今期の販売価格BSIは13.3と、前期（▲4.7）から18.0ポイント上昇し、マイナスからプラスに転じた。</li> <li>今期の資金繰りBSIは▲17.2と、前期（▲37.4）から20.2ポイント上昇した。来期は▲11.4と、さらに上昇する見通しとなっている。</li> <li>26年度における設備投資の実施事業所割合（実績見込み）は25.9%と、前年度実績（15.4%）から増加した。</li> <li>経営上の問題は「仕入価格の上昇」（66.7%）が最も多く、以下「人材不足」（40.0%）、「生産・受注・売上げ不振」（30.5%）と続いている。</li> </ul>
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> <li>26年4～6月期の業況判断BSIは▲23.0と、前期（▲30.4）から7.4ポイント上昇し、続く同7～9月期は▲22.4とほぼ横ばいとなった。先行きについてみると、同10～12月期は▲18.1と上昇するが、27年1～3月期は▲22.0と低下に転じる見通しとなっている。</li> <li>今期の生産・売上BSIは▲24.9と、前期（▲16.4）から8.5ポイント低下した。来期は▲24.8と、ほぼ横ばいとなる見通しとなっている。</li> <li>今期の仕入価格BSIは20.4と、前期（15.9）から4.5ポイント上昇した。今期の販売価格BSIは▲4.3と、前期（▲11.8）から7.5ポイント上昇した。</li> <li>今期の資金繰りBSIは▲13.7と、前期（▲14.1）からほぼ横ばいとなった。来期は▲5.9と上昇する見通しとなっている。</li> <li>26年度における設備投資の実施事業所割合（実績見込み）は、19.5%と、前年度実績（21.8%）から低下した。</li> <li>経営上の問題は「人材不足」（40.2%）が最も多く、以下、「労働力不足」（28.3%）、「生産・受注・売上げ不振」（26.3%）と続いている。</li> </ul>